

平成 30 年 8 月 26 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H02925

研究課題名(和文) アカデミック・ポートフォリオ作成の価値の探究および普及に資する方法と支援の研究

研究課題名(英文) Inquiry of value of developing Academic Portfolio and support for its dissemination

研究代表者

栗田 佳代子 (Kurita, Kayoko)

東京大学・大学総合教育研究センター・准教授

研究者番号：50415923

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,700,000円

研究成果の概要(和文)：構造化アカデミック・ポートフォリオ(SAP)およびその作成を行うワークショップを開発した。作成者および作成支援者への質問紙調査により、SAPの価値は、自分の活動に関する深いリフレクションにあることが確認された。また、作成ワークショップは特に作成支援者の支援の質が重要であることが示唆された。さらにSAP作成の効率化ツールであるSAPチャートを特定専門領域(看護学)に特化した構造化ナースング・ポートフォリオ・チャート(SNPチャート)などの開発も行った。これら簡便なツールもまたリフレクションを支援する方法であり、よい導入となることが確認された。

研究成果の概要(英文)：Structured Academic Portfolio (SAP) and a workshop for a support of creating SAP were developed. By questionnaire survey to creators and creation supporters, it was confirmed that the value of SAP is in deep reflection with respect to their activities. In addition, it was suggested that the quality of support of the creating supporters, in particular, was important for the workshop. Structured Nursing Portfolio Chart (SNP chart) specializing in a certain discipline (nursing) as an derivative version of SAP chart, which is an efficient tool for creating SAP. These simple tools are also an effective method to enhance reflection, confirming that it is a good introduction to heavier reflection tool.

研究分野：高等教育

キーワード：アカデミック・ポートフォリオ ティーチング・ポートフォリオ 作成支援ワークショップ

1. 研究開始当初の背景

(1)国内外のアカデミック・ポートフォリオに関連する研究動向

アカデミック・ポートフォリオ(以下,AP)は,教育活動のみを扱うティーチング・ポートフォリオ(以下,TP)とともに,欧米では昇進等に用いる多角的な業績評価の一手法として広く認知されている。一方,国内においては,ポートフォリオは教育の質向上への関心の高まりから注目されつつあるが,業績評価方法というより,個人の活動改善の方法として,まず,TPが徐々に広まっている状況である。APは,「TPの次に作成するTPの拡張版ポートフォリオ」として認知されている段階であるが,TP同様に活動の改善や目標設定に主眼がおかれている。教員の多岐にわたる活動を俯瞰する自己省察を中心としたAPの作成は,作成者にとっても,作成の支援者にとっても,大学教員としての成長を促し活動を活性化する契機となりうると考えられるが,その価値の探究に関する研究はそれほど進んでいないのが現状である。また,質保証の点についても,ワークショップ自体に基準を設ける試みはあるが,作成プロセス自体の質保証にはあまり踏み込めていない。

(2)これまでの研究成果をふまえ本研究を着想するに至った経緯

研究代表者は,大学教員の教育業績の可視化方法という観点から,2007年にTPに関する研究を開始し,TPに関する書籍の翻訳,日本の文脈に適應したTP作成ワークショップの開発・実施,講演等を通じた情報発信,そして,情報共有のためのウェブサイト構築等,国内におけるTPの普及支援に関わる研究と実践活動を一貫して行ってきた。APについても2012年に作成方法の開発を行い,TPと同様に普及支援研究を開始している。APは,教育に加え,研究・管理運営・社会貢献といった教員の活動全般を扱うことから,例えば,新任教員がキャリアパスを考えるために利用する等,教育に特化したTPよりも潜在的なニーズはあるものの,実際には次に挙げる課題が普及を阻んでいる。まず,先述の通りAP作成の価値が十分に明示されていないという点である。AP作成後のアンケートでは作成に対する評価は非常に高いが,それは「作成してはじめてわかる」のが現状である。第二に,AP作成に要する時間の問題がある。現行APはTP作成を経てAP作成という二段階の手続きをとり,計6日間を必要とするため,時間確保のハードルが高い。したがって,作成の価値が不明でかつ作成に要する時間も長く,質保証の体制も明確ではないという現状を鑑みると,費用対効果を考えればAP作成という行動は生じにくいと言わざるを得ない。

これらの課題を多角的な角度から解決を試みAPの普及を促し大学教員の活性化に資することが本研究課題の目的である。

2. 研究の目的

本研究期間内に明らかとなる,あるいは実現しようとする事項は以下の3点である。つまり,1.で挙げた2つの課題の解決,および得られた知見およびAP作成に有益なリソースを公開することである。

(1) アカデミック・ポートフォリオ作成の価値の明確化～自己省察および作成支援を中心に～

TPの研究から導かれた知見より,作成支援を伴うポートフォリオ作成は深い自己省察を促すとされる。しかし,そこで生じている自己省察の質,プロセスおよび効果については,明らかではない。そこで本研究では,AP作成において自己省察することの価値を明らかにする。また,従来AP作成の「コスト」とみなされてきた,作成支援者(メンター)についてもその役割を担うことの価値を明らかにし,支援の捉え方の転換をはかる。以上より,AP作成の価値を多角的に明示する。

(2) アカデミック・ポートフォリオ作成プロセスの合理化と質保証

現行のAP作成が長時間を要することはAP普及を阻む要因の一つである。本研究では,APの作成プロセスの質を担保しながら,作成時間の短縮を試みる。方法としては,まず,作成プロセスにおける自己省察部分の支援を目的として,既に開発されている構造化AP[4]を用い,作成者独力による深い自己省察を可能にすることで,作成時間を現行の6日間から3日間に短縮する。また,作成プロセスの質の維持の方法として,特に自己省察が促進される作成支援者(メンター)との1対1の対話部分(メンタリング)の質担保を目的に開発されたメンタリングチェックシート[5]の活用と,メンターおよびメンターのサポート役のスーパーバイザーの研修プログラムについて計画・実施し,それぞれ効果検証を行う。

(3) 得られた知見および事例のウェブサイトにおける公開

本研究で得られた成果は,全てウェブサイト等から公開を行う。また,APの実例や作成プロセスの支援のケース(メンタリングの実例),APの機関への導入事例等,APの普及に有用な情報のアーカイブ構築も行う。これらについても,ウェブサイト上で公開し,AP作成や導入の支援に資する。

3. 研究の方法

(1) AP作成の価値の明確化

(1)-A AP作成における自己省察の特徴および意義の構成

AP作成における自己省察の特徴やその意義を明らかにするにあたり,リフレクションに関する一連の関連研究・理論を概観する。そして,AP作成時に行われる自己省察の特徴および意義について考察し,まとめる。妥当性検証に向けて質問紙調査および半構造化面接の項目準備を行う。

(1)-B AP 作成におけるメンター役割の意義の構成

作成支援者(メンター)の役割に注目する。メンターは、AP 作成者の深い自己省察を支援する点において非常に重要な役割を果たすが、この役割に求められる能力は、他の場面にも活かされる可能性が高い。(1)-A と同じく、まず、メンター活動に関する文献研究を行い、メンター役割の特徴と意義について整理し、その記述の妥当性を確認するための来年度の調査に必要な項目準備を行う。

(1)-C アカデミック・ポートフォリオ作成の価値に関する妥当性検証と提案

平成 27 年度に設計した調査計画に基づき質問紙調査および半構造化面接等によりデータ収集を行う。得られたデータは適宜、量的データ分析および質的データ分析を用いて、「AP 作成の自己省察の意義」および「AP 作成支援の意義」の各記述についての妥当性検証を行う。

(2) アカデミック・ポートフォリオ作成プロセスの合理化と質保証

(2)-A 構造化アカデミック・ポートフォリオの作成ワークショップのテスト

構造化アカデミック・ポートフォリオを用い、従来の作成方法である「TP 作成 AP 作成」ではなく、直接 AP 作成を行う 3 日間ワークショップを設計する。そのパイロットテストを、連携研究者の所属機関の協力を得て少なくとも 2-3 カ所において実施する。

(2)-B メンタリングチェックシートの有効性の評価

(2)-A の実施にあわせ、メンタリングの質保証のためのチェックシートの有効性評価を実施する。

(2)-C メンターおよびスーパーバイザーの役割および資質の抽出と整理

(2)-A の実施にあわせ、メンターおよびスーパーバイザーの役割と資質の抽出と整理を行う。連携研究者に協力を依頼する他、ワークショップ中のメンターのミーティングを利用したデータ収集を行う。

(2)-D アカデミック・ポートフォリオの新しい作成方法の本格実施

平成 27 年度に実施した構造化アカデミック・ポートフォリオを用いた新型ワークショップのパイロットテストについて参加者から得られた各種データを分析し、修正を行った上で本年度より本実施に移行する。安定的にワークショップを開催できるよう再度連携研究者に協力を依頼し、AP の新方法による作成の普及を進める。

(2)-E メンタリングチェックシート運用

(3) 得られた知見および事例のウェブサイトにおける公開

(3)-A 事例アーカイブの実装

実際に作成される AP や多様なメンタリングの事例、導入方法の具体例についての事例アーカイブのデザインをはじめ、公開内容および方法等について連携研究者より適宜、

助言を得る。

(3)-B アーカイブに収録する事例の収集開始と実装

平成 27 年度にデザインを決定したアーカイブに収録する事例の収集を行う。i) 実際作成された AP、ii) 問題のあるケースへうまく対処した例等多様なメンタリングのケース、および iii) 機関への AP 導入の各事例のアーカイブ化を予定している。また、アーカイブに追加された事例は適宜公開を行う。

(3)-C アカデミック・ポートフォリオの解説用パンフレット作成

アカデミック・ポートフォリオの意義が明らかとなり、作成方法についても一定の合理化と質保証が実現すると見込まれる最終年度に、AP の普及を目的としたパンフレットの作成を行う。TP については既にパンフレットが存在し、その普及活動において手軽な紹介媒体として重要な役割を果たしている。

4. 研究成果

アカデミック・ポートフォリオのもっとも大きな価値は活動全体のリフレクションにより理念を見出し、活動を統合的にとらえるところにある。その価値を効率的に実現できるように、構造化アカデミック・ポートフォリオ(SAP)を開発した。

また、その作成支援として開発された SAP 作成ワークショップにおいては、従来の事前課題に加え新しく開発した SAP チャートを加えたワークショップ設計とした。このワークショップでは、従来の「ティーチング・ポートフォリオを作成してアカデミック・ポートフォリオを作成する」という 6 日間かかっていた期間を 3 日間に短縮し、作成の障壁を低くすることができた。また、ワークショップ中の作成者とその作成支援者との 1対1のミーティングの質保証を目指したメンタリングチェックシートを開発した。その効果を検討した結果、ミーティングの質保証に資することが示唆された。

アカデミック・ポートフォリオ普及の課題は、短縮できたとはいえ、3 日間を要するという「時間がかかること」にある。したがって、最大の価値であるリフレクションに重きを置いた別の複数の取り組みの効果についても検討を行った。第一に、SAP 作成ツールの一部である SAP チャートを応用して、看護師のリフレクションを目的とした構造化ナーシング・ポートフォリオ・チャートの開発を行い、チャートの効果について検討した。第二にティーチングの活動を取り出して 1 ページにまとめるティーチングステートメント及び研修の開発と実施を行った。ステートメントはポートフォリオの構造はそのままに簡易版と位置づけられ、短時間で作成できかつグループによるフィードバックの仕組みを取り入れることからスケーラビリティの向上が期待できる。

ウェブサイトである「ティーチングポート

フォリオネット」には随時ワークショップの情報が配信される仕組みを整えた。さらにワークショップにおいて、ポートフォリオをメンターメンティーで共有することで運営の支援を目的とする仕組みを設計し構築を行った。また、アカデミック・ポートフォリオの普及支援を目的としてパンフレットの作成を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

- 1 栗田佳代子 (2017) 教育の質を問うティーチング・ポートフォリオをあらためて俯瞰する, 看護教育, 58(11), 886-891 査読無
- 2 栗田佳代子, 吉田壘 (2017) 教育の改善につながるリフレクションの方法, 看護教育, 58(7), 540-546 査読無
- 3 北野健一, 栗田佳代子 (2016) ティーチング・ポートフォリオの効果検証: 外部メンターと内部メンターの違い, 日本高専学会誌, 21(3), 33-36 査読有
- 4 Yoshida, L., & Kurita, K. (2016) Development of a Graduate Student Academic Portfolio, Educational Technology Research, 39(1), 111-123 査読有
- 5 Yoshida, L., & Kurita, K. (2016) Evaluation of Structured Academic Portfolio Chart and Workshop for Reflection on Academic Work, Procedia Computer Science, 96, 1454-1462 査読有
- 6 吉田壘, 栗田佳代子 (2016) ポートフォリオ作成を支援するメンタリングチェックシートの開発と応用, 大学教育学会誌, 38(1), 172-180 査読有

[学会発表](計 4 件)

- 1 吉良直, 栗田佳代子, 吉田壘 (2017) 米国研究大学における大学院生を対象としたティーチング・ポートフォリオ作成支援に関する研究 - 日本への示唆, 第 23 回大学教育研究フォーラム, 332-333
- 2 Yoshida, L. & Kurita, K. (2016) Evaluation of Structured Academic Portfolio Chart and Workshop for Reflection on Academic Work. 2016.9.5-7, 20th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems York, UK
- 3 北野健一, 栗田佳代子 (2016) ティーチング・ポートフォリオの効果検証 ~ 外部メンターと内部メンターの違い ~, 日本高専学会第 22 回年会, 2016.8.27-28, 沼津高専
- 4 吉田壘, 栗田佳代子 (2016) 構造アカデミ

ック・ポートフォリオ作成の評価; 第 22 回大学教育研究フォーラム, 238-239, 2016.3.17-18, 京都大学

[図書](計 2 件)

- 1 栗田佳代子, 吉田壘, 大野智久 (2018) 「教師のための『なりたい教師』になれる本!」学陽書房 144 ページ
- 2 栗田佳代子, 日本教育研究イノベーションセンター(編) (2017) 『インタラクティブ・ティーチング アクティブ・ラーニングを促す授業づくり』河合出版 233 ページ

[産業財産権]

[その他]

<https://portfolio-net.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

栗田 佳代子 (KURITA, Kayoko)
東京大学・大学総合教育研究センター・
准教授
研究者番号: 5 0 4 1 5 9 2 3

(2) 研究分担者

尾澤 重知 (OZAWA, Shigeto)
早稲田大学・人間科学学術院・准教授
研究者番号: 5 0 3 8 6 6 6 1

吉田 壘 (YOSHIDA, Lui)
東京大学・教養学部・特任助教
研究者番号: 5 0 7 5 5 8 1 6

(3) 連携研究者

北野 健一 (KITANO, Kennichi)
大阪府立大学工業高等専門学校・教授
研究者番号: 2 0 2 3 4 2 6 3

小林 直人 (KOBAYASHI, Naoto)
愛媛大学・医学系研究科・教授
研究者番号: 5 0 2 3 4 8 3 6

竹元 仁美 (TAKEMOTO, Hitomi)
聖マリア学院大学・看護学部・教授
研究者番号: 1 0 3 1 0 9 1 3

松本 高志 (MATSUMOTO, Takashi)
阿南工業高等専門学校・
創造技術工学科・教授
研究者番号: 0 0 2 5 9 9 3 8

三浦 友理子 (MIURA, Yuriko)
聖路加国際大学・看護学部・助教
研究者番号: 7 0 7 0 9 4 9 3

皆本 晃弥 (MINAMOTO, Teruya)

佐賀大学 工学系研究科・教授
研究者番号：00294900

(4)研究協力者

ピーター・セルディン (SELDIN, Peter)
Pace University・名誉教授